

(8) わくプロ意見交流会

科学わくわくプロジェクト(わくプロ)のねらいの大きな要素である、「広島地域において科学教育に携わる人々のネットワークづくりのための受け皿(プラットフォーム)となること」を実現するための取り組みの一環として、前項の共同開発型支援事業の対象者などの参加を得て、「青少年のための科学教育推進・普及活動に関する意見交流会」を開催しました。その概要は次のとおりです。

日時：平成18年2月26日(日)午後1時～5時

場所：広島大学東千田キャンパス1階 共用講義室1・2

参加者：24名

- (内訳)・広島大学：教員5名，学生・院生6名，神戸大学1名，山口大学1名，
広島市立大学1名，徳山工業高等専門学校1名
- ・中学校教員2名，小学校教員1名
 - ・子ども文化科学館1名，国立吉備少年自然の家2名
 - ・国立教育政策研究所教育課程研究センター1名，マツダ財団2名

内容：

- ・開会： 科学わくわくプロジェクト研究センター長 挨拶
- ・セッション1： 研究報告と話題提供
 - (1) 広島県物理教育推進研究会
熊野中学校 原田二郎教諭
 - (2) 広島科学キッズ支援プロジェクト
広島市立大学情報科学部 川本佳代助手
 - (3) 吉備自然体験活動研究会
国立吉備少年自然の家 松村純子課長ほか
 - (4) 山口理科教育研究会
山口大学教育学部 池田幸夫教授
- ・セッション2： 基調講演
「学校外科学教育の意義と評価のあり方」- 理解増進活動の今後の方向性を考える -
神戸大学発達科学部 小川正賢教授
- ・セッション3： パネルディスカッション
「学校で学ぶ科学と学校外で学ぶ科学 - その連携を考える - 」
パネリスト
神戸大学発達科学部 小川正賢教授
徳山工業高等専門学校 室長大應教授(サイエンスレンジャー)
広島市立子ども文化科学館 加藤一孝専門員
広島市立安佐南中学校 福本隆寿教諭
- 司会
広島大学大学院教育学研究科 磯崎哲夫助教授
- ・閉会

講師報告

広島大学大学院 教育学研究科 磯崎 哲夫 助教授

1) 事業の目的

広島大学科学わくわくプロジェクト研究センターでは、学校教育における理科・科学教育はもとより、多様な形態で学校外科学教育を推進しサポートしてきている。本年度の意見交流会は、支援している研究団体による研究成果報告、わが国の科学教育研究第一人者の講演、学校外科学教育を推進・サポートしている人たちによるパネルディスカッションを通して、学校教育としての科学教育や学校外科学教育に関わる人や関心のある人と意見交流し、重要な考え方を共有することを目的としている。

2) 事業の内容・方法

本年度の意見交流会は、以下の3つのセッションで実施した。

セッション1：研究報告と話題提供（午後1時～午後2時）

研究報告団体

- (1) 広島県物理教育推進研究会
- (2) 広島科学キッズ支援プロジェクト
- (3) 吉備少年自然体験活動研究会
- (4) 山口理科教育研究会

セッション2：基調講演（午後2時15分～午後3時）

講演者：小川正賢 氏（神戸大学教授・日本科学教育学会会長）

演題：学校外科学教育の意義とその評価のあり方

セッション3：パネルディスカッション（午後3時15分～午後5時）

演題：学校で学ぶ科学と学校外で学ぶ科学～その連携を探る～

パネリスト：小川正賢 氏（同上）

室長大應 氏（徳山工業高等専門学校教授・サイエンスレンジャー）

加藤一孝 氏（広島市立こども文化科学館専門員）

福本寿隆 氏（広島市立安佐南中学校理科教師）

司会：磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）

3) 事業の成果及び今後の課題

当日は、24人の参加者を集め、各自の発表時間を超え様々な意見が出され、有意義な意見交流会となった。具体的には以下のものであった。

研究報告：広島県物理教育推進研究会は、平成18年2月18日に実施された、同研究会主催（本プロジェクトセンター共催）の「明日から使える理科教材（ ）」について発表した。広島科学キッズ支援プロジェクトは、同会が主催する子どものための

ポータルサイトについての説明があった。吉備自然体験活動研究会は、さまざまな自然体験や遊びを通して自然のしくみにふれるとともに、自然とかがわることの楽しさを体感することを目的とした小学校低学年対象の自然体験活動についての詳細な調査研究成果を発表した。山口理科教育研究会は、中学校理科の授業における簡易デジタル顕微鏡を用いた授業実践を報告した。

いずれの報告も子どもの主体的な活動が主体であり、本研究プロジェクトセンターが意図する科学する心を育成する上で効果的な取り組みであると言える。

次に、基調講演では、学校外科学教育の意義とその評価のあり方として、国の科学技術系人材開発の動向や国際プロジェクトの結果を交え、学校外科学教育の意義が述べられるとともに、その成果や評価からして、特定の人々を対象とした学校外科学教育についても今後検討する必要性が語られた。

パネルディスカッションでは、学校で学ぶ科学と学校外で学ぶ科学～その連携を探る～と題し、パネリストとして基調講演を行った小川氏が参加し、サイエンスレンジャーの立場から室長氏、社会教育施設専門員の立場から加藤氏、中学校理科教師の立場から福本氏が、まず、それぞれの意見を述べた。室長氏は、サイエンスレンジャーや理科教師というご自身の経験から、理科教育において本当の意味でのものづくりが必要であること、マジックショー的な実験は学校の科学では必ずしも有効でないことなどを指摘した。加藤氏は、社会教育施設において科学を学ぶ機会が増えてきているにも関わらず、それを担当するスタッフや資金が必ずしも十分でないことを指摘した。福本氏は、現在の中学校理科の子どもの実態についてデータに基づいて説明をした。その後、フロアも交えて、科学をどう学ぶかについて討論した。

今回の意見交流会は、限られた人たちを対象としていたが、極めて有効な意見交流会となった。これまでの意見交流会は「科学」や「科学教育」の専門家が中心であったが、今後は、「科学」を専門としない人（例えば、政策立案者や行政に携わる人）や児童・生徒の保護者などの意見を徴集することも必要であろう。

写真



研究報告

基調講演



パネルディスカッション